

2. 平戸架橋平戸側の地質

西 村 進 (猶興館高校)
高 峰 和 男 (猶興館大島分校*)

地形図 1/50,000「平戸」、1/25,000「平戸」

1 位置および現況

平戸島北東部の南竜崎と、その対岸の北松浦郡田平町とをつなぐ平戸大橋の架橋工事が行なわれている。平戸瀬戸をはさんで平戸側でも、田平側でも、海岸線に沿って一連の好露出がある。架橋建設に伴って、平戸側に若干の新しい露頭があらわれたものの、風化している部分が多く、本工事によって新たに知られるようになった事実は少ない。

2 地質の概要

田平町の海岸と、平戸瀬戸に面した南竜崎付近の海岸には、層厚400m以上といわれる砂岩を主体とした第三系の田平層が分布する。地層の走向は南竜崎付近ではN10°E、その北の白浜付近ではN25°Wを示し、傾斜は15~20°Wである。

田平層とその下位の九十九島層群大塔層(野島層群南田平層)とは不整合関係といわれているが、松浦玄武岩におおわれているため、その

境界ははっきりしない。また、平戸島には、田平層に類似した砂岩や火山砕屑物に富む固結度の低い平戸層とよばれる地層が広く分布するが、田平層との関係を示す露出は見付かっている。田平層を不整合におおって、層厚10~15mの南竜崎砂礫層がある(写真1, 2)。この砂礫層は巨礫を含む小~大礫を主体とし、上部には青灰色シルト岩層および暗赤色凝灰岩層をとまなう。この上位には玄武岩質火山角礫岩や玄武岩が重なる(写真3)。玄武岩には青灰色シルト岩をとり込んでいる場合もある。

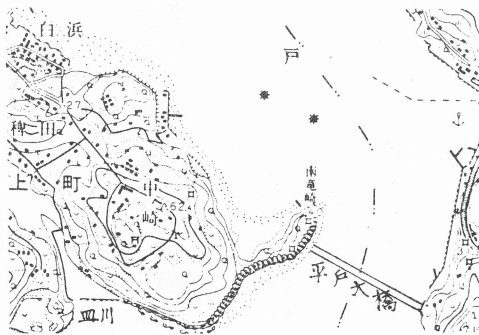
3 露頭の解説(すべて従来より海岸に露出)

a) 田平層(模式的露出地:南竜崎および白浜)

本地域の田平層の大部分を占めるのは、固結度の低い、黄白色を呈する粗粒~中粒の層状砂岩であり、クロスリナが発達している。橋脚の北側では、細粒砂岩とシルト岩が互層をなし、青灰色泥岩の薄層をはさんでいる。砂岩層の中には径が数mmから1.5cmにおよぶ石炭礫を含み、またシルト岩の薄層には植物化石を含む。白浜の海崖には石炭礫と、よく円磨されたチャートや砂岩の中礫を含む砂岩層が露出する。

b) 南竜崎砂礫層および玄武岩類(模式的露出地:橋脚より南の海岸)

礫岩:田平層を不整合におおい、小~大礫からなるも、時には径が最大50cmにおよぶよく円磨された巨礫を含む。礫種は安山岩がほとん



位置図

*現在西彼高校(定時制)

どで、わずかに玄武岩を含む。礫の中には風化していわゆる“クサレ礫”状を呈しているものもある。全体として暗褐色を呈しているため、遠望しても田平層との識別は容易である。

砂岩：礫岩層の上部に1枚の青灰色細粒砂岩があり、層厚は0.3～1mにわたって膨縮し、固結度は低い。

凝灰岩：砂岩層の上部にあり、1～2枚の暗赤色層状凝灰岩である。

玄武岩質火山角礫岩：凝灰岩層の上部にあり、層厚0.5～4mにわたって膨縮する暗赤色～暗褐色の層である。中間に1～2枚のよく成層した砂岩層がはさまれる場合がある。

玄武岩：黒色に密な無斑晶質玄武岩であり、鏡下では、カンラン石の小斑晶が認められ、石

基は玄武岩組織を示している。大橋に至る取付道路の切取面には上下2枚の玄武岩が見られ、下位の玄武岩の最上部は赤色粘土となる。

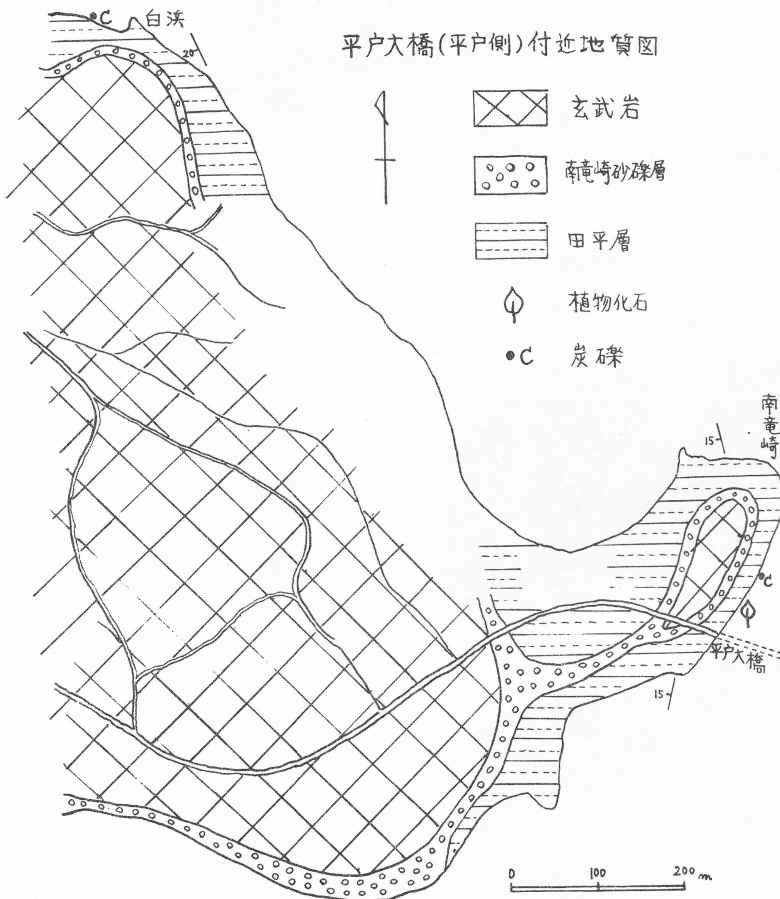
4 地学的意義

a) 平戸市街地に住む人なら何回かは必ず見ているような地域である。身近な露頭を調べることに、教材としての意義がある。

b) 市街地から歩いて30分程度であり、地学の野外実習を行うには適している。

c) 干潮時をえらべば、白浜から南竜崎南方まで海岸沿いに歩くことができ、高さ20m程の崖に露出する地層の断面が容易に観察できるので、スケッチもしやすい。

d) 田平層は一般に15～20°の傾斜をもつので、走向・傾斜が容易に測定でき、地層の連



続している様子がわかる。またクロスラ
ミナの観察や植物化石の採集もできる。

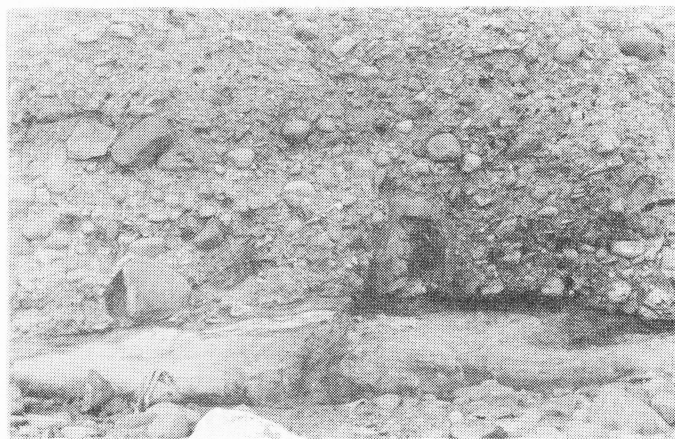
e) 南竜崎砂礫層には、標本にみられ
る岩石とは非常に違い、大小さまざまな
礫の混在することや、風化している礫が
見られる。

f) 狭い範囲で田平層と不整合関係に
ある礫岩や玄武岩の重なり合う状態が見
られるので、地史を考えるのに大変都合
がよい。

南竜崎砂礫層
↓
田平層



写真1 →W



南竜崎砂礫層
↑
↓
田平層

写真2 →NE



玄武岩
↑
火山角礫岩 (暗赤色)
↓
凝灰岩 (暗赤色)
↓
細粒砂岩 (青灰色)
↓
礫岩

写真3 →E